

第2回保育について語ろうデーのお知らせ

令和元年6月19日(水) 実施しました!



香川大学教育学部 附属幼稚園

参加者：幼稚園教員 坂出市 9名
高松市 1名
さぬき市 2名
宇多津町 1名
綾川町 1名
琴平町 1名
保育所保育士 坂出市 1名
綾川町 1名
こども園保育教諭 綾川町 1名
共に語りあった方：金子之史先生 片岡元子先生



| | |
|-------|------------|
| 9:15 | 保育公開 |
| 11:30 | 降園 |
| 12:00 | 昼食会・自己紹介 |
| 13:15 | 協議1 保育について |
| 15:00 | 協議2 事例検討 |
| 16:30 | 終了 |



語り合ったことのお知らせします!

【子供たちの衝突をどう援助する? ~子供たちが自ら解決していく力~】

「~したい」気持ちがあるからこそ、子供たちは衝突するのですね。そんな時「すぐに解決したい」と過剰に援助してしまうことがあります。しかし、衝突する中で学ぶこともたくさんあるでしょう。相手の気持ちや自分の気持ち、解決方法、心配してくれる友達の存在や仲直りして味わう安心感等。

本当に育みたいのは、豊かな体験を積み重ねる中で子供たちが自ら解決したいと思うようになる心。子供の発達や育ちの過程、場に応じた援助や保育者の心持ちについて語り合いました。

【事例 3歳児4月下旬~5月上旬 Mちゃんに寄り添う中で気付いたこと】

経験の少ない保育者にとって、子供が「泣く」ということはとても心の痛い出来事でしょう。泣いている子供のために「何とかしなくては」と思います。でも、思えば思うほど心の距離が離れてしまう...こんなことってありますね。そのような中、白川先生は、ずっとM児に寄り添う年長児の姿や、M児の遊びを共に楽しむ先輩保育者の姿から大きな気づきを得ました。それは、先生自身が深く考え、関わりを求め続けたからでしょう。白川先生は悩んだ分、出口を見付けることができました。見つけた時に見えた景色は、きっと白川先生にとって心の財産になるはずですよ。

若い保育者たちが、保育の中で大切なことを一つずつ自分でつかんでいく過程に、ヒントやきっかけとなる種を蒔きながら温かく見守る園の雰囲気、とても大切ですね。

【語ろうデーに参加して感じたこと ~参加者アンケートより~】

- 若い先生の事例に対して、周りの先生方が見た子供の姿を色々な角度から伝え合ったり、子供の気持ちと同時に先生の気持ちにも寄り添ったりしながら話し合う雰囲気が素敵だった。若い先生を育てていく大切な関係づくりを学ぶことができた。(40代Aさん)
- 私も1~2年目に同じ思いを感じていたことを思い出し、涙が出そうだった。何年経験を積んでも「今日の保育はよかった」と思える日はなかなかない。しかし、語り合える仲間がいて「よし、明日は頑張ろう」と思える日々が、園の保育の質を向上させるのだと思った。頑張ります。(30代Bさん)

次回は、7月17日(水)附属幼稚園(坂出)です。